

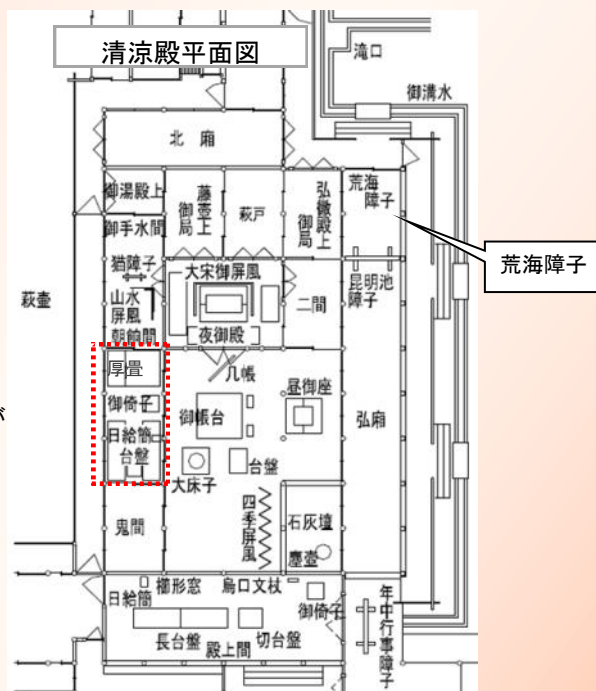
だいばんどころ ごいし
清涼殿 台盤所の御椅子



写真中央に御椅子，左手に厚畳，右手前に見えるのは台盤

肘掛けと背を備えた四脚の腰掛けで，材は黒柿です。肘掛けは2
段で，その上方は勾欄型になっています。全体を螺鈿の唐草文様
で飾り，座は纏欄縁の小畳を敷いて茵を重ねてあります。茵の縁
は赤地に雲形の模様です。

大きさは幅55cm，奥行き54cm，高さ91cmで，座面の茵は幅46cm，
奥行き39cmです。写真では大きさが分かりにくいと思いますが，
現代のオフィスにある椅子と座面の大きさはさほど変わらないよう
です。



が
台盤所

この御椅子は以下のとおり展示されます。
江戸東京博物館 開館20周年記念特別展
「大江戸と洛中 ～アジアのなかの都市景観～」
平成26年3月18日(火)～5月11日(日)
江戸東京博物館1階展示室
(東京都墨田区横網1-4-1)

清涼殿西廂にある台盤所は，平安鎌倉時代には女官が詰め，天皇の御膳を整えたところです。
順徳天皇が鎌倉時代に著された有職故実の解説書『禁秘抄』には，台盤所について「三間。北ノ間く朝餉ノ方くニ黄端ノ畳ヲ敷ク。東ニ椅子」と書かれてあり，御椅子を東側に置くことが記されています。



僅かな光でも輝く螺鈿の唐草文